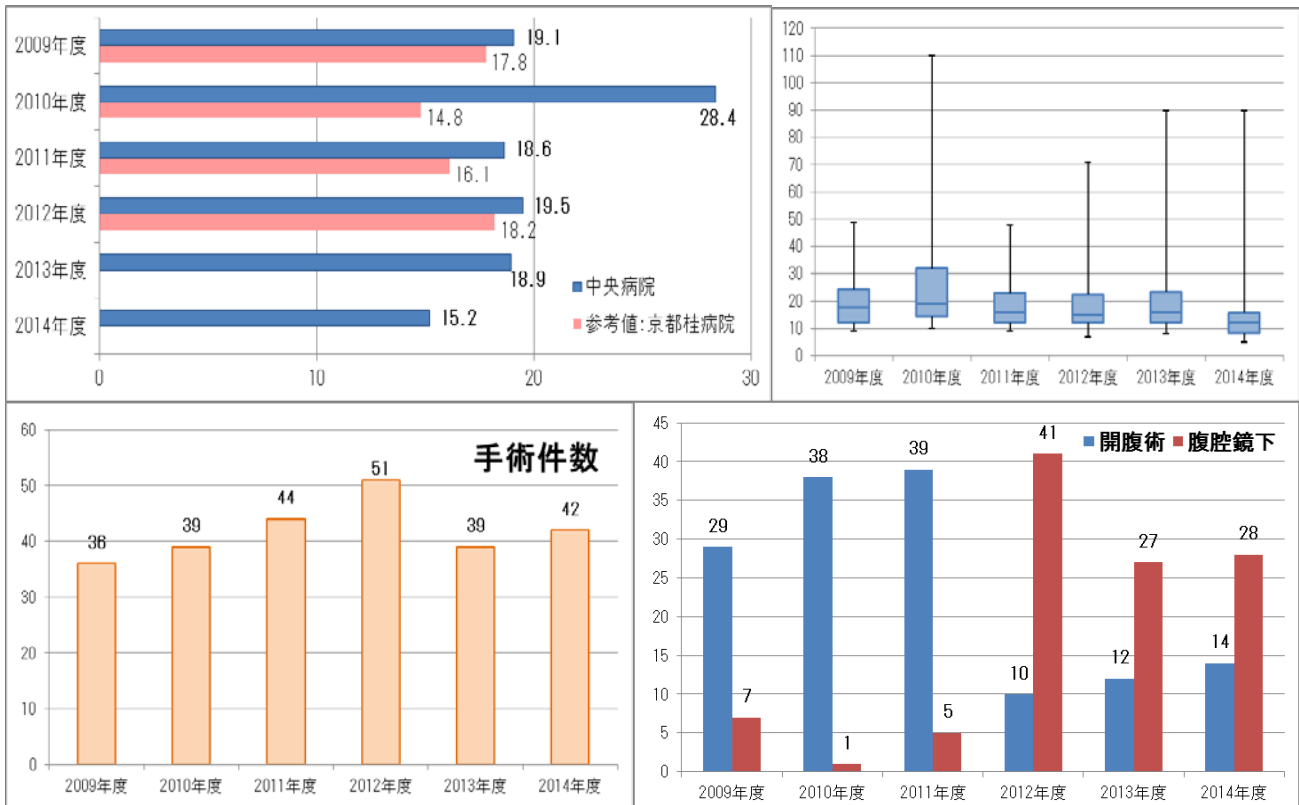


# 診療情報管理委員会ニュース

(臨床指標報告)

VOL. 15 2015年6月 診療情報管理委員会

## 【大腸癌術後在院日数】



### ※DPC データを使用

分子：分母対象例の術後在院日数(退院日－手術日)の総和

分母：退院患者の内「結腸癌、直腸癌」を主病名として入院し、入院中に全身麻酔による手術治療(開腹および腹腔鏡下結腸切除術、もしくは結腸部分切除術)を受けた患者数

### 【意義】

- 医療の質の評価。大腸癌術後管理の評価として在院日数を検証する。
- 術後に、合併症・続発症が発生すれば、在院日数は長くなるため、短期での退院は術後管理が適切に行われたと考えられる。

### 【考察】

- 開腹と腹腔鏡下での術式数を比較すると、年々開腹術が減少し腹腔鏡下による術式が増加している事が、在院日数短縮の要因の一つとして挙げられる。
- 在院日数を比較する際分母の件数が大きく影響するが、当院では対象となる手術件数が増加傾向にあるため、純粋な在院日数の短縮と考えられる。
- ただし、除外項目を設定しておらず長期入院となったケース(外れ値)も含まれるため、検討する際は注意が必要となる。(右上：箱ひげ図参照)